

東北地方 1か月予報

(8月3日から9月2日までの天候見通し)

平成14年8月2日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとあります。

高気圧に覆われ晴れて暑い日もありますが、前線やオホーツク海高気圧の影響で曇りや雨の日が多い見込みです。

向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並が多い、日照時間は平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目、2週目、3～4週目ともに平年並の見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



 低い(少ない)  平年並  高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



 低い  平年並  高い

<予報の対象期間>

1か月 : 8月 3日(土)～ 9月 2日(月)

1週目 : 8月 3日(土)～ 8月 9日(金)

2週目 : 8月 10日(土)～ 8月 16日(金)

3～4週目 : 8月 17日(土)～ 8月 30日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報:毎週金曜日14時30分 次回は8月9日

3か月予報:8月20日(火)14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温, 降水量, 日照時間と1週目, 2週目, 3~4週目の平均気温)

	気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温(℃)		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	22.8	194.2	158.1	23.4	23.2	22.6
新庄	23.7	166.5	174.5	24.4	24.3	23.4
若松	24.6	125.2	196.1	25.2	25.0	24.3
深浦	22.9	160.8	184.0	23.5	23.4	22.6
青森	22.8	129.3	188.8	23.6	23.4	22.5
むつ	21.5	140.8	151.3	22.2	21.9	21.2
八戸	22.2	141.7	170.8	22.9	22.6	21.8
秋田	24.3	180.6	199.5	24.9	24.9	24.0
盛岡	23.0	172.4	156.4	23.7	23.5	22.6
宮古	22.1	176.7	162.5	22.5	22.5	21.9
酒田	24.7	176.4	209.6	25.3	25.3	24.4
山形	24.4	143.4	182.2	25.2	24.9	24.1
仙台	23.9	170.5	153.2	24.5	24.3	23.7
石巻	23.3	123.5	175.5	23.7	23.7	23.2
福島	25.0	138.6	156.4	25.7	25.4	24.7
白河	23.1	218.3	152.5	23.7	23.5	22.9
小名浜	23.9	136.3	191.9	23.8	24.0	23.9

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(℃)	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.4~+0.6	72~120	89~110
東北日本海側	-0.4~+0.5	77~109	92~111
東北太平洋側	-0.4~+0.6	66~124	87~111

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.8~+1.1	-0.7~+0.9	-0.5~+0.9
東北日本海側	-0.9~+1.1	-0.7~+0.9	-0.5~+0.8
東北太平洋側	-0.6~+1.3	-0.7~+1.0	-0.5~+0.8

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合(出現率)を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、そのうちの6回で予報した階級が実際に起こり、4回で起こらないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には気候的出現率(各階級ともに33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、有意性が低い場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成14年8月2日 仙台管区気象台

1. 可能性の大きな天候の特徴

向こう1か月(8月3日~9月2日) :

高気圧に覆われ晴れて暑い日もありますが、前線やオホーツク海高気圧の影響で曇りや雨の日が多い見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

1週目(8月3日~8月9日) :

期間の初めと終わりは気圧の谷の影響で天気の崩れる所がありますが、その他の日は高気圧に覆われ概ね晴れるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

2週目(8月10日~8月16日) :

高気圧に覆われ晴れる日もありますが、前線やオホーツク海高気圧の影響で曇りや雨の日が多い見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

3~4週目(8月17日~8月30日) :

高気圧に覆われ晴れて暑い日もありますが、前線やオホーツク海高気圧の影響で曇りや雨の日もある見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

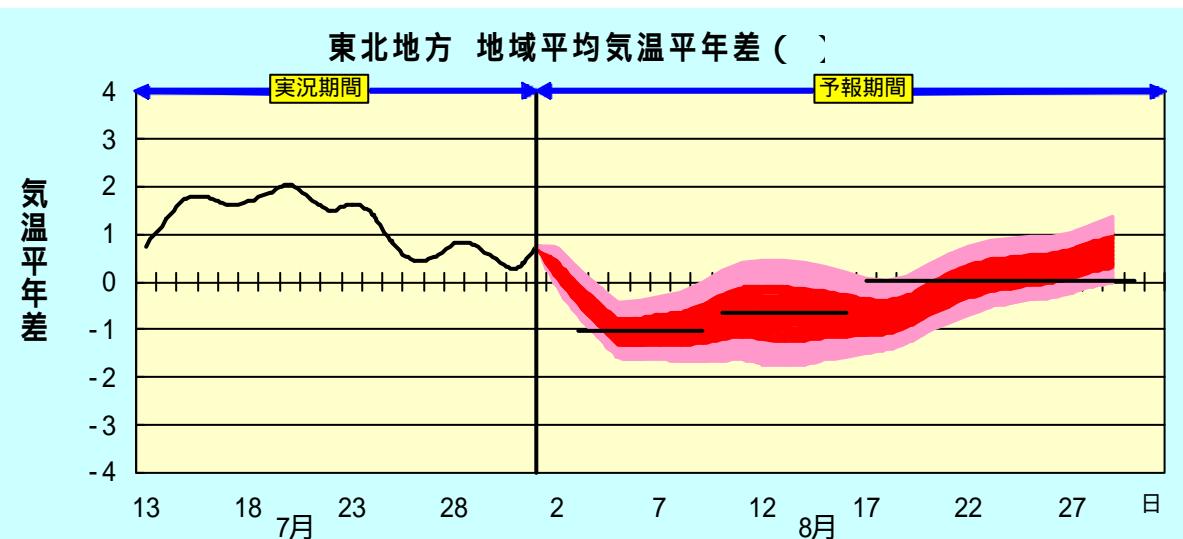
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	16.5日	4.2日	4.4日	7.9日
東北太平洋側	14.4日	3.9日	3.7日	6.8日

2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目「低い」、2週目、3~4週目は「平年並」を予測している。

予報は、1週目を週間予報資料より「平年並」とし、2週目、3~4週目は数値予報どおりとする。なお、数値予報の信頼度は大きい。

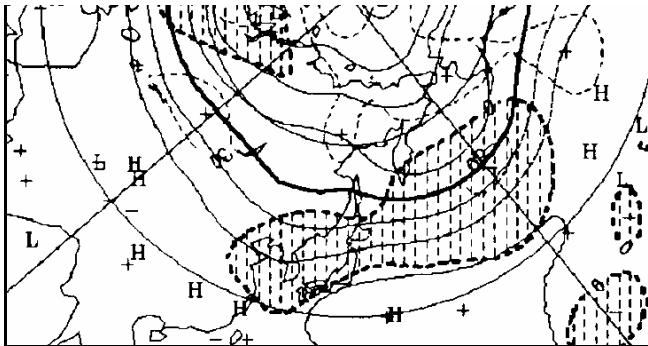


* 実況期間(図の左側)の太い実線: 東北地方地域平均気温平年差の実況値。(7日平均値)

* 予報期間(図の右側)には7日平均気温の予測に対する信頼の程度が40%の幅(濃い赤の範囲)と信頼の程度が70%の幅(濃い赤と薄い赤の範囲)を表示

* 水平な3本の実線: 予報期間の1週目、2週目、3~4週目についての多数の平均。

3. 循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

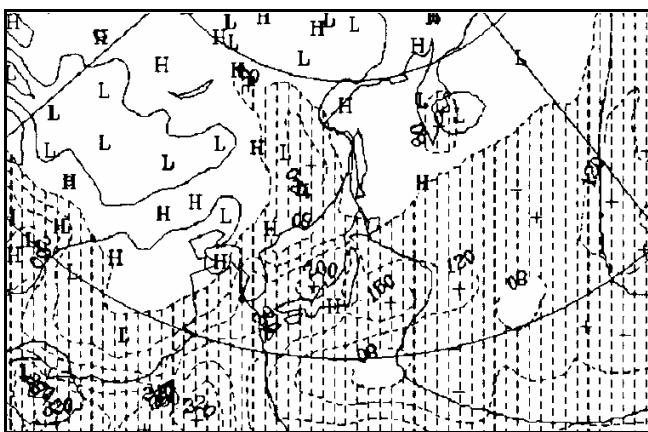


月平均の 500hPa 高度・偏差
等高度線 : 60m 毎、偏差 : 30m 毎、陰影部 : 負偏差

500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、太平洋高気圧は日本の南東海上にあって、ほぼ平年並の勢力となる見込み。しかし、朝鮮半島は気圧の谷場となって、日本付近は東西に広く負偏差となる。また、サハリンではオホーツク海高気圧に対応する気圧の尾根が予想される。

週別（図略）では、1週目は太平洋高気圧の勢力が弱まり、日本付近は広く負偏差となるが、2週目以降は太平洋高気圧の勢力が次第に強まる見込み。また、期間を通してオホーツク海には気圧の尾根が予想される。



月平均の地上気圧と降水量
等圧線 : 4hPa 毎、降水量 : 40mm 毎、陰影部 : 80mm 以上

地上気圧と降水量

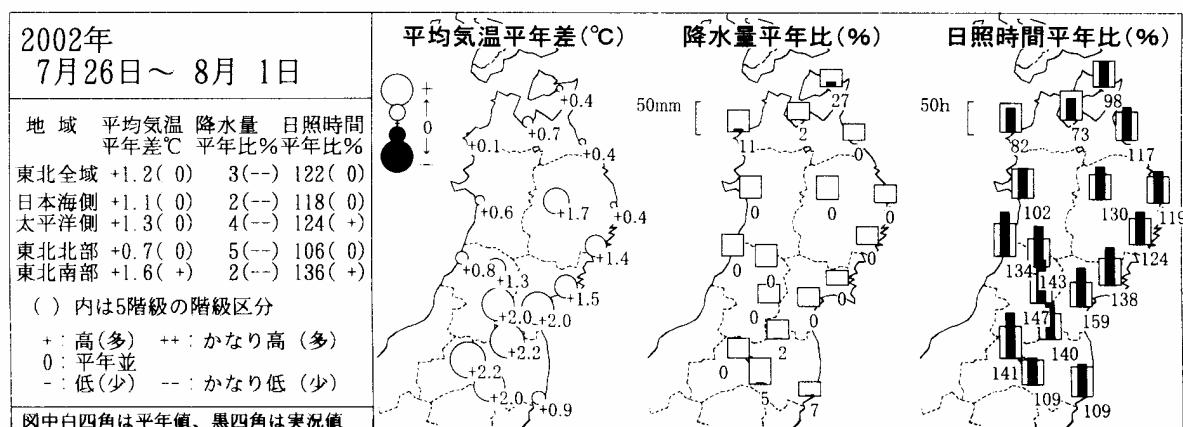
月平均で見ると、太平洋高気圧は日本の南に張り出しが、オホーツク海高気圧も北日本に張り出し、日本付近は低圧部となって前線の影響を受け易い。降水域は日本付近を広く覆い、まとまった降水域もかかる。

週別（図略）では、1週目にオホーツク海高気圧の張り出しが弱いが、2週目以降は月平均と同様で北日本に張り出す。日本付近の低圧部も各週に見られ、前線やオホーツク海高気圧の影響を受け易く、曇りや雨の日が多くなる見込み。

4. 最近1週間（7月26日～8月1日）の天候の経過

高気圧に覆われ概ね晴れて厳しい暑さとなる所もあったが、後半は前線が南下してきたため東北北部では曇りや雨となった。

平均気温は、東北北部で平年差+0.7と平年並、東北南部で平年差+1.6と高かった。降水量は、東北地方で平年比3%とかなり少なかった。日照時間は、東北北部で平年比106%と平年並、東北南部で平年比136%と多かった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）